

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	1 めざす生徒像 ・好奇心を大切にし、個性を生かして、自ら考え探究する生徒 ・しなやかな心で、自己の可能性を信じ、目標に向かって挑戦する生徒 ・思いやりを持ち、互いに支え合い学び合いながら、社会に貢献できる生徒 2 めざす教師像 ・生徒の学が意欲に応え、常に学び続け、生徒の可能性を引き出し伸ばす教師 ・信頼関係を大切に、生徒に寄り添い、ともに歩んでいく教師 ・教職員が一丸となり、保護者・地域社会とともに生徒を育てる教師
------------	--

(2) 現状と課題	1 「進学重視型の単位制高校」である本校は、大学を含む上級学校進学率が90パーセントを超えており、地域社会を牽引するリーダーの育成や医師不足の解消など、青森県の抱える課題克服のため、難関大学や医学部への進学者を増やすことが期待されている。また、生徒のニーズに応じた多様な選択科目を設定した教育課程の編成と習熟度別授業やチームティーチングなど、きめ細かな学習指導の充実が求められている。 2 悩み事や困り事を抱える生徒に対して、個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成し、具体的で組織的支援をはかる必要がある。
-----------	---

(3) 重点目標	1 大学進学の数値目標は、国公立大医学科2、難関大15、国公立大120とする。達成に向けて、一般選抜の他、総合型選抜・学校推薦型選抜にも積極的に対応する。
	2 個々の生徒に応じた指導をきめ細かにを行い、一人一人に自己存在感を与える。
	3 生徒が教え合い・学び合う環境を醸成し、自ら学ぶ意欲を涵養する。
	4 生徒の動態・心身の状態を常に把握する。
	5 授業力、進路指導力、生徒指導力を高める。

(4) 結果の公表	学校ホームページで公開する。
-----------	----------------

学校整理番号	12
学 校 名	青森県立八戸北高等学校
全日制の課程	

自己評価実施日	令和 6年 1月 26日(金)
学校関係者評価実施日	令和 6年 2月 15日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員 4名、保護者代表 4名 計 8名

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	大学進学の数値目標達成に向けた積極的な対応	・授業第一主義 ・研修による大学入試に関する情報の共有及び指導力向上 ・難関大プロジェクトの充実 ・共通テスト、総合型選抜・学校推薦型選抜への対応 ・生徒・保護者への進路情報の提供	・授業を大切にするとともに、入試に関する情報収集のために、校外研修等に積極的に参加した。 ・各年次の対応時期において、生徒へ系統的な進路指導ができた。 ・生徒への情報提供は十分であったが保護者への提供について検討する必要がある。	B	・共通テスト対策として、読解力が必要になるので、学校図書館の有効活用はもちろんだが、読書習慣の大切さについて小中学校と連携して取り組む必要もあるのではないかと。 ・進路指導については、進路指導部、3年次を中心に学校全体で取り組んでいる。	・生徒の進路希望に添った体験活動等について充実させ、より適切な進路選択ができる力を育てる。 ・校外研修により多くの教員が参加し、生徒へ還元できる環境づくりに努める。
2	個々の生徒に応じたきめ細かな指導	・「生徒指導の三機能」を踏まえた生徒へのアプローチ ・習熟度別授業やIT等によるきめ細かな指導 ・個別面談の充実 ・共通テストへの対応、大学受験を見据えた指導計画の作成及び実行	・学校行事等での活躍の場の設定と適正な評価により、生徒の自己存在感の育成につなげた。 ・生徒の習熟度による展開授業を多くの教科で実施した。 ・個別面談を計画的に実施し、生徒理解に努めた。	A	・学校行事はコロナ禍前の状況に戻ってきており、生徒の成長のためにも必要な経験だと改めて感じた。働き方改革もあるので、工夫しながら行事に取り組んでほしい。 ・複数の教科で習熟度別授業を実施し成果を上げており、生徒の意欲向上にもつながっている。	・生徒数が減少することを踏まえた新しい学校行事の在り方について生徒会を中心に検討する。 ・授業アンケートの結果等を踏まえ、よりよい授業を展開することができるよう教材研究に取り組む。

3	生徒が教え合い・学び合う環境のづくり及び、自ら学ぶ意欲の涵養	・教室内を中心とする学習環境の整備・挨拶の励行、遅刻への意識、自己確立、他者尊重 ・自学力を高める日常的かつ積極的な働きかけ ・ICTの積極的活用	・毎日の清掃、計画的な環境整備によって、適切な学習環境の維持に努めた。 ・定期的な挨拶運動のほか、日常的な励行で習慣化を促した。 ・学習法の指導、情報提供を継続し、自学力の向上につなげた。 ・授業の中でICTの活用を行った。	B	・校舎内外ともに綺麗であり、今後ともこの綺麗な状態を保ってほしい。 ・挨拶や服装の指導については、各家庭の取組も大きいので、PTAとしても協力していきたい。 ・社会にでると自分自身で「気付く」ことが重要になるので、「生徒に気付かせる」という視点で指導することも必要ではないか。	・生徒自らが挨拶の大切さや校則等の意味を考える機会を設け、生徒が互いに啓発できる環境づくりを進める。 ・生徒がより主体的に学び、積極的に学校生活を送ることができるよう支援するため、教職員も研修を深めるなど学びの姿勢を大切に取り組む。
4	生徒の動態・心身の状態の常時把握	・生徒指導部を中心とした全校的な指導体制 ・いじめや不登校の未然防止、早期発見・早期対応 ・健康の自己管理意識の育成 ・適切な教育相談 ・スクールカウンセラーやメンタルコーチの有効活用	・教育支援委員会や職員会議において、情報を共有し、定期的な面談等を行うなどして、問題行動等の早期発見・早期対応にあたった。 ・アセスの計画的な実施によって情報を共有し生徒理解を深めた。 ・年間を通じてスクールカウンセラー、メンタルコーチによる生徒の相談業務に計画的に取り組んだ。	A	・昨年度に比べて「生徒が生き生きとした学校生活を送れるような学校づくり」のアンケート項目の評価が高くなっているのは素晴らしい。引き続きより良い学校づくりに努めてほしい。 ・スクールカウンセラー、メンタルコーチについて積極的に活用しているのに評価が低いので、情報提供について検討する必要があるのではないか。	・いじめや不登校に対して、アンケートやアセス等の活用するなど早期発見・早期対応に努める。 ・教職員間の情報共有はもちろんスクールカウンセラーやメンタルコーチと連携しながら、生徒のより充実した学校生活に向け支援する。
5	授業力、進路指導力、生徒指導力の向上	・授業参観週間・研究授業週間を設定 ・受験に関する情報収集とその対策 ・平常時の危機管理（日常的な生徒の観察、「違和感」を感じたらすぐに行動に）	・計画的に研究授業、互見授業の機会を設定し、教員の授業力向上につなげた。 ・ICTの活用による興味関心の伸長と授業の高効率化を進めた。 ・日常から生徒観察の感性を磨くとともに、教職員間の情報共有によって問題行動等の未然防止に努めた。	A	・授業評価について、良好であり丁寧な教科指導が行われているとのことであり、引き続きよろしく願いたい。 ・教員の仕事は多忙だと思うが、健康に留意され、工夫しながら取り組んでほしい。	・研究授業の実施時期や方法について工夫し、より充実した内容となるよう改善する。 ・校内外の教員研修等についても、情報提供及び活用しやすい体制づくりに努める。
(11) 総括		めざす生徒像、めざす教師像を意識し重点目標の達成を目指して、教職員が一丸となって日々の教育活動に取り組んだ。生徒の進路目標達成のために授業第一主義はもちろん、研修等に参加し情報収集に努めるとともに難関大プロジェクト等計画的な学力向上プロセスで生徒を支援した。また、生徒の動態・心身の状態について、情報共有を図り組織で対応していくため面談や教育支援委員会を定期的に開催し、いじめ問題や不登校の未然防止、早期発見・早期対応に努めた。新年度に向けて、新課程の入試対策等を含め教員の研修の機会等の充実を図り、生徒の多様なニーズに応えることができる学校づくりを目指し取り組みたい。				